

## 日本気象学会1993年度秋季大会の告示

1. 期 日：1993年10月26日（火）～28日（木）
2. 会 場：
  - 宮城県民会館（一般講演）
  - 〒980 仙台市青葉区国分町3-3-7
  - 仙台市民会館（シンポジウム等）
  - 〒980 仙台市青葉区桜ヶ岡公園4-1
3. 研究発表：
  - 1) 発表は口頭またはポスターによって行う。口頭発表は4会場に分かれて行う。
  - 2) 口頭発表には2種類があり、これらの選択は原則として発表者の希望による（「口頭発表の方法」参照）。スペシャル・セッションも口頭発表に準ずる。
  - 3) ポスター発表は「ポスター・セッションの方法」による（掲示板の大きさにご注意）。
4. 講演申し込み方法：
 

発表方法にかかわらず、本号末の申込用紙に記入し、予稿集原稿を添えて申し込む。原稿の書き方については364ページの「講演予稿集原稿の書き方」を、申込先・申込期限等については申込用紙をごらん下さい。
5. シンポジウム：
 

「大気・陸面過程と衛星リモートセンシング」のテーマで、大会1日目（10月26日）午後開催の予定。

大会参加費の払込は、郵便振込による前納または当日受付によります。前納用の振込用紙は6月号に挿入します。なお、10月25日（月）には日本海洋学会との共催による“Air-sea interaction”に関するシンポジウムがイズミティ21（仙台市泉区七北田字松30）を会場にして開催され、気象学会の参加費で出席できます。

### 口頭発表の方法

#### 1. 種 別

次の2種類のどちらかを発表者が選択して申し込む。

- ・第1種講演（講演5分、質疑2分）：新しい研究成果の要点・概要等を発表する。
- ・第2種講演（講演10分、質疑5分）：よくまとまった段階の研究成果を発表し討論する。予稿は明確に構成記述され、必ず1章を設けて主張の明らかなまとめまたは結論が明記されたものでなければならない。講演企画委員会は予稿をチェックし、第1種に振り替えることがある。この場合、委員会は申込者に連絡する。

なお持ち時間は、申込総数によっては上記よりも短くなることがあり得る。

#### 2. 申込件数の制限

1人（連名の場合、同一講演者）で申し込める口頭発表は1件に限る。ただし、独立したテーマの研究に限り、第1種講演1件の追加は認める。

同一講演者による2件の類似したテーマの発表（「その1」「その2」あるいはこれに準ずる性格を持つもの）が申し込まれた場合には、講演企画委員会が適宜処置する（ポスターへの振り替えなど）。

### ポスター・セッションの方法

1. 概要紹介に引き続きポスターの前で説明を行う。概要紹介もポスター・セッションも第2日（10月27日）に行われる予定（講演数が多ければ他の日時にも行う）。
2. ポスター・セッションは1時間でこの間は口頭発表は休憩とする。
3. 概要紹介は直前の口頭発表のセッション（会場に

ついては講演企画委員会で指定する）で講演者自身が行う。時間は1～2分でOHPまたはスライドを1枚だけ用いることができる。

4. ポスターは事務局の指定した場所に掲示する。なお、掲示板に余裕があれば大会期間3日間を通じて掲示することもできる。
5. ポスターの掲示および撤去は講演者自身が行う。

なお掲示に必要な鋏またはテープは事務局で用意する。

- 6. 掲示板は 260 cm (縦) × 110 cm (横) である。ただし、ポスターは大きな紙一枚に書く必要はない。

例えば、B 4 サイズの紙に分けて描き、当日掲示板に並べてもよい。

- 7. ポスターには講演題目と講演者名を明記する。

### 講演予稿集原稿の書き方

大会発表を申し込む会員は、以下の要領で予稿集原稿を作成し、本号末の申込用紙とともに講演企画委員会へ送付して下さい。

1. 原稿枚数：1 件 1 枚
2. 用紙：本号末の予稿用紙、または B 4 判 (他の判は不可) の白紙あるいは薄青色の方眼紙を使う。原稿はそのまま写真製版され、B 5 判に縮小して印刷される。
3. 記入方法：用紙に直接書くか、別の用紙に書かれた文書・図表を貼る。
4. インク：墨または濃い黒色インクを使う。ワードプロセッサのインクが薄い場合には、コピーしてから使用する (インクが薄いままだと、字がかすれたり、方眼紙の網目が浮き出たりする場合がある。)
5. 配置

#### 予稿用紙を使用する場合

1 行目に標題を書く。標題が長ければ 2 行目も使う。

3 行目に著者名と所属 (勤務先等) を書く。所属は、カッコに入れる。著者が複数の場合には講演者の左肩に \* をつける。必要に応じて 4 行目も使う。

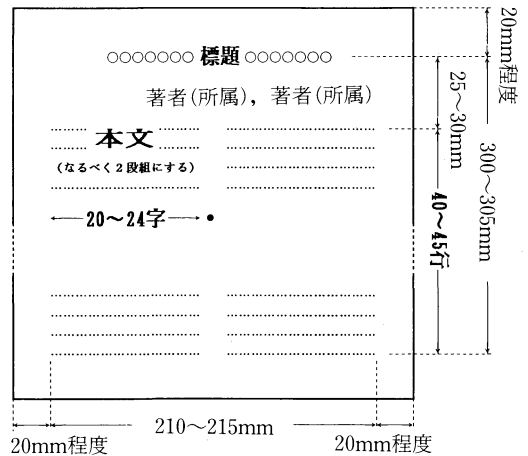
5 行目以下に本文を書く。本文は 2 段組にし、左半分 → 右半分の順に書く。

#### B 4 判用紙を使用する場合 (付図参照)

記載範囲は縦 305 mm 以内 × 横 215 mm 以内とし、上部には 20 mm 程度の余白をとる。

予稿用紙の場合と同様、最上段に標題、その下に著者と所属を書き、本文をその下につける。標題から本文までの間隔は 25 ~ 30 mm とする。本文はなるべく 2 段組 (左半分 → 右半分) にする。

その他の寸法や本文の字数・行数は、厳密に付



B 4 判用紙による予稿集原稿の作成要領。

図の通りでなくてもよい。

- 6. 図および表

墨または濃い黒色インクで、用紙の枠内の任意の箇所に直接描くか、白紙または薄青色方眼紙に描いて枠内に貼る。写真や図等には折り目が入らないようにする。階調のある写真はうまく出ません。

- 7. 著作権：予稿集に掲載された文章および図表の著作権は日本気象学会に帰属する。
- 8. 送付先・送付期限：申込用紙参照。なお、予稿集原稿を細かく折り畳まないで下さい (2 つ折りは可)。

講演企画委員会では、予稿の多くがワードプロセッサで作られている現状を考え、現行の予稿用紙を近い将来に廃止することを検討しています。この点についてご意見等がありましたら、当委員会へお寄せ下さい。

### 講演企画委員会からのお知らせ——研究会活動への援助について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・

直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一

般の会員が自由に参加できることが条件として、可能な援助をします。具体的には、大会プログラム等への掲載、講師を呼ぶ場合の報酬・交通費などの資金、会場・機器の手配、時間の調整などが考えられます。支援を希望する方は、右記の事項を明記の上、講演企画委員会へ申し込んで下さい。

申込先・申込期限：一般講演と同じ  
記入事項 1. 会の名称とテーマ  
2. 代表者の連絡先  
3. 希望日時・開催場所  
4. 予想参加人数  
5. 希望する支援内容

## 1993年度秋季大会「スペシャル・セッション」のご案内

1. テーマ：TOGA/COARE
2. 趣旨：熱帯海洋と大気大循環の関連を解明し、特に ENSO や関連する現象の季節変動や年々変動の機構を明らかにするために開始された TOGA 計画も、その後半の中心的な副計画である COARE 計画が順調に進展しつつある。特に COARE 計画の中心的な課題である、太平洋西部赤道域における観測 (IOP) が1992年11月から1993年2月にかけて実施され、日本からも多くの

研究者がこの観測に参加し、多くの興味ある研究成果が得られている。観測終了からほぼ6カ月を経過した気象学会秋季大会の時点で、得られている成果を発表し、関係者以外の多くの会員にも議論に参加していただき、研究の一層の進展を図るために、スペシャル・セッション「TOGA/COARE」を開催したい。

3. 呼掛け人：住 明正 (東京大学気候システム研究センター)

## 秋季大会の予稿集の申し込みについて

1993年秋季大会 (仙台) の予稿集 (64号) の予約希望者は下記を記入のうえ葉書または FAX で学会事務局宛にお申し込みください。すでに定期購読されている会員は不要です。

日本気象学会 事務局  
〒100 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内  
TEL 03-3212-8341 E 2546  
FAX 03-3216-4401

### 記

- 1) 氏名 (会員番号がわかる場合は会員番号も)
- 2) 送付先または所属 (会員番号を記入した場合は省略してもよい)
- 3) 64号 (秋季大会予稿集) のみの場合；64号のみ  
64号以降定期購読の場合；64号以降定期と記してください。

注. \*印刷部数が限られているので、購読希望の方は予約購読をお勧めします。大会当日は売り切れとなることがあります。

\*従来の葉書折り込みは今回から止めました。

頒布価格 (円)	個人会員	団体会員
64号のみ	2,300	2,500
定期購読	2,000	2,200

予稿集の申込締切りは1993年10月15日 (金) です。